

Kitami Institute of Technology

北見工業大学

学報

平成13年7月 事務局総務課発行 第186号

総合研究実験棟(機器分析センター)竣工



(関連記事27ページに掲載)

＝会議報告＝

全国国立大学工学系学長懇談会

本懇談会は、平成13年5月10日(木)、11日(金)の両日にわたり、愛媛大学が当番校となって26国立大学工学系学長が出席して開催された。

協議事項の第1は「工学系大学・工学部に大学入試センター試験5教科7科目を課すことについて」であり、宮崎大学長から提案理由が説明された。その主旨は、先に国立大学協会の総会において、全大学が大学入試センター試験5教科7科目を課すことが決まり、2004年入試から実施するようにと要請されたが、いろいろ難しい問題があるので、他大学の意見及び実施計画について伺いたいとのことであった。大半の工学系の大学入試では4教科6科目であったが今後は5教科7科目の方向で検討する予定とのことであった。

協議事項の第2は「JABEEへの対応について」であったが、提案理由は豊橋技術科学大学長からなされた。JABEEの審査では語学力(英語)と工学倫理の評価も非常に重要であることが強調されたほか、JABEEの審査以外に、いろいろの資格試験、たとえば情報処理技術者試験等のある学科ではJABEEの必要性に温度差があるとの意見も出された。

第51回国立大学工学部長会議

平成13年5月17日(木)・18日(金)

出席：常本副学長、大内事務局長

1. 文部科学省からの報告概要

出席者：国際課課長 木曾 功 他4人

1) 国際化関連

JICAとの協力による諸事業を進めているが、この中で外国人研修員の受入れのためのセンターが設置されている。工学系では豊橋科学技術大学に設置された。

2) 高等教育関連

創造性豊かな人材育成のための諸政策と、改革の方向性が示された。研究分野としては、バイオテクノロジー関連、ナノテクノロジー関連、環境関連、IT関連に重点がおかれて整備がなされる。

なお、施設整備5ヵ年計画で国立大学の大学院施設の狭隘解消、卓越した研究拠点、先端医療の大学附属病院について210万 m^2 の整備を行う。また、昭和45年以前の施設のうち、約390万 m^2 についても優先順位を決めて整備することが示された。

2. 協議事項

1) 最近の工学系教育改善の取組みと教育評価システムについて

学力低下の原因には多くの問題が絡んでいるが、大学としては入試科目の増加、補習授業の促進、TAの活用などが問題解決の一手法であるとの提案があった。また、授業評価の積極的活用例として福井大学のBest Teacher賞が紹介された。

2) 国際的に通用するエンジニアの教育について

国際舞台で活躍できる技術者の育成が急がれているが、そのステップとしてJABEE対応のカリキュラム整備が必要である。東北大学ではJABEEの審査が受けられるようコースの設定などが進められている。

3) 産学連携について

地域共同研究センターが中心となって産学連携の中から新産業の創製を進めているが、承認TLOと認定TLOの法的整備が遅れているとの説明があった。

香川大学では、地方FMを利用し各教官の紹介を行っており、すでに100人近くが出演している。現在はテレビを週2回30分使って実施しており、共同研究等の増加につながっているとの報告があった。

4) 入試科目の増加について

5教科7科目の受験科目設定に対する各大学

の取組みが紹介された。九州地区では九州地区工学部長会議でこの方針を決定している。

以上の件について協議されたが意見交換が主であり、特に決議された事項はなかった。

平成13年度北海道地区国立大学長会議

詳細については、= 会議 = (20頁) 参照。

第108回国立大学協会総会

本総会は平成13年6月12日(火)、13日(水)の両日にわたり、学士会館(東京)で開催された。

開会に先立ち直前に起きた痛ましい事件、大阪教育大学附属池田小学校で亡くなられた子供たちへ1分間の黙とうがささげられた。

第1日目午前には長尾真会長(京都大学総長)挨拶、新学長の紹介の後、会務報告、各委員会委員長報告、各地区学長会議報告がなされた。引き続き、第2常置委員会委員長から「大学入試センター試験の前年度成績の利用について」のほか7案件について報告がなされ、種々意見交換がなされた。

午後は協議事項、常置委員会委員(大学代表者)の所属替えについて、平成12年度国立大学協会歳入歳出決算、平成13年度同予算について審議された。また当面する諸問題については「設置形態検討特別委員会における検討結果について」及び「常置委員会における関連事項の報告」がなされた。

第2日目午前には第1～8常置委員会が開催され、委員長の選出と今後の審議方針が協議された。

午後は各常置委員会の委員長選出結果の報告、引き続き各常置委員会委員長挨拶及び報告がなされた。また大学入試センターからの報告がなされた後協議事項に移った。

協議事項では「当面する諸問題について」で、初めて「大学(国立大学)の構造改革の方針」いわゆる「遠山プラン」について文部科学省審

議官からその説明がなされ質疑応答がなされた。最後に退任学長挨拶があり終了した。

国立大学長会議

本会議は平成13年6月14日(木)、国大協の翌日、学士会館(東京)で開催された。

文部科学大臣の挨拶の後、当面する諸問題として高等教育局長から「国立大学の在り方(独立行政法人化)について」「大学改革の推進について」などのほか、「国立大学の整備に係る予算について」「大学における諸課題について」の説明がなされた。

引き続き科学技術・学術政策局長から科学技術基本計画のポイント、総合科学技術会議の概要、科研費などについて、さらに学術研究体制の整備、研究費の充実等について説明がなされた。その他生涯学習、初等中等教育、文教施設についてはそれぞれの局長・部長から説明がなされた。

要望事項

- 1) 国立大学工学系に対する予算の増額
- 2) 文部施設整備関連の増額について
- 3) 工学系大学院の専任教官の充実及び専用の施設・整備について
- 4) TA、RA及びPDフェロシップ制度の拡充と経費の充実について
- 5) 地域共同研究センターの整備充実及びTLOの活用について
- 6) 学部別授業料制度の実施に対する反対について

以上の要望を文部科学大臣を初め、関連各部署に提出することが承認された。

＝国際交流＝

バージニア州立工科大学工学部との学術交流協定締結

(総務課)

平成13年6月29日(金)、米国バージニア州 Blacksburg にあるバージニア州立工科大学工学部応用力学工学科と北見工業大学は学術交流協定を締結いたしました。先方の大学は正式名称を Virginia Polytechnic Institute and State University (以下 VPI という) といい、協定を結んだ学科は Engineering Science and Mechanics, College of Engineering です。通称この学科は頭文字をとって ESM と呼ばれています。

VPI は大きな大学で、8学部、110学科に25,000人の学生が学んでいます。敷地面積も2,500エーカーと本学の50倍以上もあり、敷地内にゴルフ場はもとより、飛行場まであります。また、アメリカ主要研究大学50校の一つで、研究実績で高い評価を受けています。先方の大学の詳細は www.vt.edu でホームページを見ることができますので、一度見ていただくことをお勧めいたします。

さて協定締結にあたっては本学からは厚谷郁夫学長、常本秀幸副学長、大島俊之地域共同研究センター長、先方からは学科長の Edmund G. Henneke 教授、今回の締結の実質上の担当者の Jack Lesko 助教授が出席し、内容確認の上、厚谷学長と Henneke 教授が協定書にサインされました。

協定締結の後、昼食の際には、バージニア州立工科大学副学長で ESM の教授でもある、



「協定書の署名」

Kennith Riefsnider 教授と会食し、今後の交流の発展について意見交換をいたしました。

今回の交流協定締結に至るまでには、本学から土木開発工学科の大島俊之教授、三上修一助教授が文部省在外研究員として派遣され、また先方 VPI、ESM からは日本学術振興会の外国人招聘研究員として、Ron Kriz 助教授と Jack Lesko 助教授が来学されており、交流の実績を積んできております。



「バージニア州立工科大学中央ローン」

今回の交流協定は大学院学生及び研究者の交流を主たる対象とした協定となっております。今後交流の実があがり、双方の学生がお互いに先方で単位を取得できる環境と状況に到達した際には本格的な学術交流協定に発展するものと思われます。そのように今後交流実績が発展する事が期待されます。

この交流協定に基づき、今年度8月27日より1年間大学院博士後期課程システム工学専攻の丹波郁恵さんが VPI、ESM に交換留学生として派遣される手続きが進められています。

今後は先方の土木、機械、電気・電子、化学、材料などの協定学科数を拡大して、交流を発展させ、大学と大学との交流として発展されることが期待されますとともに、本学においても英語コースの新設など受け入れ態勢の整備が期待されます。

本稿は、土木開発工学科 大島俊之教授(地域共同研究センター長)から寄稿いただきました。

2001年 NAFSA 年次総会における日本留学フェア (大学間交流促進プログラム)への参加報告

機能材料工学科教授 高橋 信夫
機械システム工学科助教授 鈴木聡一郎

1. はじめに

平成13年5月27日から6月1日までの6日間、アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィア(写真1参照)において開催された、第53回 NAFSA (Association of International Educators) 年次総会の期間中に併設された日本留学フェアに出展し、総会参加者に対し北見工業大学を紹介した。年次総会出席者の多くは、大学及び大学院における留学生教育の関係者であり、この出展の目的は単に世界各国の大学関係者に本学をアピールするのみに留まらず、大学間交流を促進し交流協定締結の足掛かりを得ることにある。以下にその概要を報告する。



写真1 フィラデルフィア市庁舎

2. NAFSA 年次総会

NAFSA は、主に留学生のための入学審査やアドバイジング、第2外国語の履修、さらにはその受け入れと派遣に関するさまざまな分野の専門家で構成されており、ニューヨークに本部を持つ国際的団体である。その詳細については、一昨年に参加された常本教授の報告並びに昨年の大島教授と亀田助教授の報告があるので、参照されたい。

今年度の総会も、例年通り世界各国から約5,000人の参加があり、フィラデルフィア中心街にある大規模なコンベンションセンター(写

真2参照)と、それに直結する Marriott ホテルの各会場をほぼ貸切りの状態で使用し、ワークショップやポスターセッションを中心に活発な討論が行われた。ワークショップは前述の内容がさらに49のカテゴリーに細分化されており、来場者は総会の参加登録とは別に、興味のあるテーマを選択し、それぞれ別個に設定された約50~150ドルの登録費を支払うことで参加が認められるというシステムで運用されていた。アジア圏では日本以外に中国、韓国、台湾そしてタイからの参加があった。



写真2 コンベンションセンター(総会会場)

3. 日本留学フェア

年次総会の期間中、コンベンションセンター内の大ホールが展示会場として用いられ、大小合わせて約250のブースが設けられた。ここでは各国の大学や国際教育機関並びに語学教育機関を中心に、留学生の移動や生活をサポートするための財団や保険会社、旅行会社などの民間企業に至るまで、留学生関連のさまざまな機関が展示を行っていた。

このような中で日本留学フェアは、財団法人日本国際教育協会(AIEJ)の留学情報センターが6つのブースを借り上げ、大学間交流促進プログラムとして主催するものであり、これに参加申し込みをした日本の大学が交代で割り当てられた時間に展示を実施するという形式がとられている(写真3参照)。具体的には、展示時間が2時間30分ずつ午前、昼、午後と3つの時間帯に分けられ、各大学は調整後の希望時間帯で活動した。大学案内等の資料については常時展示され、来訪者がいつでも持ち帰ることができるように配慮されている。今年度のフェアには、表1に示すように国立大学11校及び私立大学9校の合計20校が参加した。その中でも、例えば慶應義塾大学のように留学生の確保や大学間交流締結を直接の出展目的とせず、既に締結している大学の担当者と同様と面談することを主目的としているケースも見受けられた。さらに、早稲田、立命館、南山、関西外国語大学は、それぞれ独自のブースを出展していた。



写真3 日本留学フェアのブース

4. 活動状況

過去2度の出展経験から、本学が留学生のために用意しているガイドブックであるBlue Skies and Brilliant Sunshineを100部と集客率向上のため大学名の入ったペン100本を配布用に準備した。さらに出展時間中は、大学紹介のポスターをテーブルに貼り付けた(写真4参照)。

本学は、5月29日と30日の二日間とも展示会場への入場者が最も多くなると予測される12:00~14:30に出展することができた。初日は、展示者自身が不慣れなこともあり、本学のブー

スへの来訪者は十数名に留まったが、他大学のブースも同様の結果であった。また、タンペレ工科大学のEila Hirvonen 女史が今回も昨年に引き続きブースを訪れ、12月6日から8日までタンペレ工科大学で開催されるEAIE(European Association for International Education)の第13回年次総会に是非出席して欲しいとパンフレット持参で説明いただいた。



写真4 北見工大の出展ブース

二日目は初日の反省を踏まえ、午前中にすべてのブースを調査し、その中から工科系の大学に的を絞って大学間交流の道を探ったうえで可能性のある大学については、午後に本学のブースへ来てもらうことにした。その結果、昨年も接触があったノルウェーのノルウェー科学工科大学(Norwegian University of Science and Technology)やオランダのアインドホーベン工科大学(Technische Universiteit Eindhoven)などは、話し合いで得た感触からすると留学生の交換等が可能であるように思われた。特にアインドホーベン工科大学では、MTD(Master of Technological Design)-programsがあり、大学院レベルでの国際交流については双方の規模の違いなどは大きな障害とならず、より可能性が高いとのことであり、コースマネージメントを担当する二人の教授を紹介いただいた。

さらに、南アフリカにはTechnikonと呼ばれる教育機関があり、学生数が約四千人のものから四万人までその規模はさまざまであるが、工科系単科大学との交流締結に積極的であった。教育内容からすると日本の専門学校的な側面もあるようだが、日本の大学と同様に4年制を基

本としており大学院に相当するコースもある。工学の分野では日本に比べ、より実社会に即した応用研究やエンジニアの輩出に力を入れているようである。

以上のように、二日目については充実した活動の中で、交流締結に向けある程度の手応えを感じることが出来た。

5. おわりに

NAFSA の年次総会参加については、本学の国際化を推進する上でも、継続することが望ましいと実感する一方で、出展への取り組みにはさらに工夫が必要になると感じた。例えば、他国の人々の興味を引くよう日本画がプリントされた団扇をプレゼントしたり、紹介資料として遠方まで持ち帰ることを想定した A6 版程度の小冊子を準備している大学があり、今後の参考にしたい。いずれにしても、NAFSA の特徴を十分に理解した活動を実施することで、より大きな効果が期待できる。

最後に、総会への参加にご理解いただいた厚谷学長をはじめ、ご協力いただいた職員の皆様に深く感謝申し上げます。

表 1 日本留学フェア参加大学

国立大学 (11校)	私立大学 (9校)
北見工業大学	桜美林大学
小樽商科大学	学習院女子大学
弘前大学	神田外語大学
千葉大学	慶應義塾大学
東京大学	国際基督教大学
東京医科歯科大学	芝浦工業大学
横浜国立大学	専修大学
神戸大学	中央大学
奈良女子大学	名古屋外国語大学
岡山大学	
九州大学	



2001年日本留学フェア(マレーシア)に参加して

教務課長 細川 勉

本学が海外で開催される日本留学フェアに参加したのは平成8年度のマレーシア、インドネシア、タイ。10年度のマレーシア、タイ。12年度の台湾に引き続いて4回目の今年度はマレーシアに鮎田耕一副学長と私が参加した。

参加機関は国立大22、公立大1、私立大23、計46大学。その他(財)日本国際教育協会等10機関・団体が総勢100名余が参加した(現地通訳を除く)。同フェアの開催趣旨は、日本留学を志すマレーシアの学生に対し、留学希望に合った大学を選択し実りある留学を達成できるように、我が国からの参加大学による最新での確な情報を提供する、こととされ対象者は高校生、大学生等留学希望者、大学等教育機関の国際交流担当者である。

日程は6月29日(金)及び30日(土)。クアラルンプール Putra World Trade Centre で両日とも11時から18時までに延べ5,264名の高校生等が、本学のブースには約400名弱、全体の7.5%が訪れた。

初日の29日は午前9時30分から各大学等のブースの設営。我がブースには持参した北見市の「ぼんち祭り」のポスター、留学生教育相談室山岸喬教授作成の7枚の写真パネル等である。同パネルには本学キャンパス全景の他、留学生見学旅行等のスナップが写し出され、多くの生き生きとした留学生の笑顔がマレーシアの高校生にも好感を持たれた。持参した資料等は本学の「Blue Skies and Brilliant Sunshine」(Blue Skies)、北海道網走支庁作成の「OKHOTSK」(英文)、北見市作成の「Welcome to KITAMI」(同)等。

10時30分からオープニングセレモニー(テーブルカット)が行われ副学長が参加。

11時開催。我がブースには、我ら両名の外に現地通訳として Syed Mohd Adli 君が加わってくれた。同君はマレーシア政府派遣留学生として滋賀大学経済学部で学び、平成8年3月卒業。

その後同国で金融機関に就職。日本企業ともお付き合いがあるとのことで流暢な日本語を操っていた。同君は、日本語の外に英語、マレー語ももちろん堪能。その上、プレゼンテーション能力にもたけ、申し分のない好青年だった。

二日目の30日には、マレーシア政府派遣として本学で学んだ平成10年3月卒業の Rafidah Ngadengon さん、本年3月博士前期課程修了の Mohd Faizul M Sabri 君の両名が駆けつけてくれた。



後列左から2人目が通訳の Syed 君

お二人とも片道3~6時間のところを車あるいは列車を乗り継いでの特別参加である。本学ブースの向かい側に位置する東京農工大学の先生からは「(わざわざ駆けつけてくれるなんて)素晴らしいですね。」とうらやましがられた。

二日間に亘り訪れた高校生等の関心事は、IT又はコンピュータサイエンスに関する事項。奨学金を含む北見市(北海道)での生活。マレーシアの高等専門学校に在籍し、卒業後、本学の3年次への編入学は可能か。日本留学試験制度、等であった。

1及び2点目は、Blue Skies の各項目を中心に。3点目は、本学では高専卒業生の本学3年次への編入制度は設けているが、留学生は想定していないこと。4点目は、Blue Skies の各項目と来年度(一部今年度)の募集要項により説明。



前列左から Rafidah さん、Faizul 君



NATIONAL UNIVERSITY of SHINGAPORE

留学フェア全体をとおしての来訪者の様子は、必ずしも留学先として本学を特定はしていないものの留学に対し熱意を持っている者、とりあえず話を聞き資料を収集する者、子供ための情報収集、に大別できようか。私自身の反省材料は、英文によるメモランダム作成（例、私費外国人留学生の奨学金受給状況、日本留学試験を含む学部レベルの入試案内等）。生活費等について現地通貨による表示。語学不足については何をか言わんやである。

フェア最終日、通訳の Syed 君、本学卒業生の Rafidah さん、Faizul 君へ感謝の意を込め、ホテルの和風レストランにて我ら二人によるご苦労さん会を開催。三名とも日本を離れてから和食を口にする機会はめったにないとか（回転寿司はマレーシアにも出店されており出かけているらしい）。留学中の思い出、恩師のこと、日本語のこと、お国柄の相違等々話に花が咲く中、お互いの再会と感謝の意を込めお別れをした。

一方、マレーシアの留学フェアに先立ち、6月28日(木) NATIONAL UNIVERSITY of SHINGAPORE を訪れた。同大学は1905年創立で工学部・法学部・医学部等8学部を有するシンガポールの総合大学。我々は Faculty of Engineering から University Hall へ出向き説明を受けるとともに、緑豊かなキャンパスでカメラのシャッターを切った。

最後に、このような貴重な機会を与えていただいた厚谷学長を初め多くの方々に御礼を申し上げるとともに、鮎田副学長に心から TERIMA KASIA（有り難うございます）。

= 寄稿 =

エコアイランド八丈島

機械システム工学科助教授 三木 康臣

環境施設を訪ねる旅、今回は「八丈島」である。

5月24日、東京羽田空港からエアニッポン最終便にて、八丈島空港へ、約45分の空の旅。機内で、隣合わせた現地のご婦人に島の様子など早速取材する。「昨日まで3日連続でガスで着陸できなかったんですよ。」、そういえば空港でも、「飛行機が引返すかもしれませんよ...」というチェックインカウンターの女性の言葉が思い出された。案の定、島の上にはガスが立ち込め、島を眼下にしなが、旋回を続ける。離陸して1時間以上してやっと降り立ったところは、周囲をアロエと椰子に囲まれた八丈島空港だった。さすが、亜熱帯。

八丈島は、東京から約290km、面積70km²、周囲59km、豆南諸島のうち大島に次ぐ大きさである。東に三原山、西側に八丈富士がそびえる火山島で、ちょうどNHK人形劇にあった「ひょっこりひょうたん島」である。集落の中心は、中央部に大賀郷（おおかごう）、三根、南部の海岸部に檜立、中之郷などがある。戦国の武将・宇喜多秀家など流人の島としても知られているが、近年はマリンスポーツのメッカであり、「エコアイランド」でもある。（図1）



図1 八丈島マップ

八丈島地熱発電所 地熱発電をご存知だろうか。火山の周辺などでは、深さ数km程度のところに1000 程度のマグマ溜りがあるところがある。地熱発電は、地下1～2 kmの地層にある断層など、岩石のすきま（地熱貯留層と呼ぶ）に貯えられた高温高压の熱水を井戸により取り出し、蒸気と水分を分け、その蒸気で蒸気タービンを回し発電するものである。もう少し、詳しく説明する。地熱発電所がある中之郷地区は地下4～5 kmにマグマ溜りがあると推定され、その熱により周辺の岩石が熱せられている。その岩石に浸透した地下水は、キャップロックが蓋となった地層においては、主に断層部分に高温高压（約300、10MPa）の熱水となって貯えられている。（地熱貯留層）このような状態のところでは、地熱貯留層まで井戸を掘ると熱水を取り出すことができる。ここで、キャップロックとはなにか、地下水にはさまざまなものが溶けこんでおり、マグマ溜りからの熱により熱水となっている。この熱水は地表に向かうに従って徐々に温度が下がる。熱水の温度が下がるにつれて、溶け込んでいた成分が再結晶化し、すきまをふさぎ、そのまわりの岩石を水を通しにくい層にすると考えられている。このように水が通りにくくなった岩石を「キャップロック」という。キャップロックは水を通しにくいいため、これより上にある温泉と下の熱水は分離されている。

地熱貯留層の中の高温高压の熱水は、井戸に入って圧力が下がると、沸騰して蒸気となる。この蒸気を、気水分離器を通して水分を除去した後（約170、0.69MPa）、蒸気タービンに送り、発電機を回して電気を起す。タービンを回した蒸気は約40 となり、復水器の中で冷却水により凝縮され、同じ温度の温水になる。地熱蒸気中には火山性ガスが含まれるが、ガス抽出

器により復水器から外に排気する。復水器から排気された火山性ガスは、大気へ排出する前に硫化水素除却設備により硫化水素を取り除く。(写真1、図2)



写真1 東電八丈島地熱発電所



図2 地熱発電所のしくみ

地熱発電の特徴は、①純国産の自然エネルギーであること、②地球温暖化の原因となるCO₂を殆ど排出しないこと、③地熱エネルギーは半永久的であること、である。

八丈島の電力供給は、島内にある一か所のディーゼル発電所(総出力11,100kW)から行っており、最低電力需要(深夜)は約3,000kWで、最大電力(夏・昼間)は約10,700kWである。地熱発電は、ベースとなる24時間、出力一定の運転を行い深夜の最低電力需要のほぼすべてを賄っている。

それでは、CO₂排出量はどの程度減っている

のか。内燃力発電所では発電用燃料としてA重油を年間12,600キロリットル使用し、CO₂が9,200トン(炭素換算)発生している。地熱発電を行うと燃料を7,900キロリットルにまで減らすことができ、発生するCO₂も5,800トン(炭素換算)へと約4割減らすことができる。

参考文献：東電パンフレット

風力発電 地熱発電所の敷地内に風力発電所が完成がある。出力は500kW。地熱発電と風力発電をベース供給力として内燃力発電燃料の削減を図っている。地熱と風力がフル稼働すれば、約33%が自然エネルギーというわけである。

また、八丈富士のふれあい牧場に、5kWの風車が4基、最大20kWを出力して牧場の牛舎・休憩舎に電気を供給している。ここからは、八丈島空港を含む島の中心部(大賀郷、三根)が見渡せ、素晴らしい眺めである。ただ、塩害がひどく、4基のうち3基までが不良と聞く。



写真2 東電八丈島風力発電所

デポジット

デポジット制度をご存知か。デポジット制度とは、容器入りの賞品を売る際に、価格に一定額を上乗せし、消費者が其の容器を返却したときに上乗せした金額が払い戻される制度である。



写真3 デポジット・飲料缶回収機(八丈島空港)



写真4 八丈富士・ふれあい牧場

温泉 火山島であるので、当然温泉もよし。榎立向里温泉(ふれあいの湯)、道ヶ沢温泉(みはらしの湯)、中之郷温泉(やすらぎの湯)などなど、著者が体験したみはらしの湯には露天風呂があり、断崖絶壁の絶景であった。

終わりに 波力発電など、この島の魅力はまだまだ未開発なところだ。素朴な島の人情、この島には自然エネルギーがよく似合う。

島の自然 アカコッコ、カラスバト、イイジマムシクイ、オーストンヤマガラなどの鳥の固有種が堪能できるほか、ハチジョウノコギリクワガタなどの昆虫、コウゼン、トサヤッコなどの豊富な魚類。八丈植物園では、タコノキ、フェニックス類、バナナ、ゴム、ピロウ、ガジュマル、ケンチャヤシなどの亜熱帯植物。自然林では、スタジイ、タブ、ヒメユズリハ、ヤブニッケイなどの照葉樹の林床には亜熱帯性のシダ類やコケ類が繁茂している。黒潮の中に浮かぶ火山島であるため、自然林の殆どは、野鳥のリベットから芽生えたものか、黒潮で運ばれたものである。(写真4)

＝入試＝

(入学主幹)

平成14年度入学者選抜要項

I 入学試験の概要

1 試験の実施方法

入学定員を分割し、「前期日程」及び「後期日程」の両試験日程でそれぞれ入学者を募集する分離分割方式で入学者選抜を実施する。〔一般選抜〕

なお、入学定員の一部(62人)について、出身学校長の推薦に基づき、学力試験を免除し調査書を主な資料として判定する推薦入学を実施する。〔特別選抜(推薦入学)〕

また、後期日程の募集人員内で、学力検査を免除し成績証明書、小論文、面接等により判定する帰国子女選抜を実施する。

〔特別選抜(帰国子女)〕

2 一般選抜の出願について 略

II 入学定員(募集人員)

学 科	入学定員	募集人員		
		前期日程	後期日程	推薦入学
機械システム工学科	80人	40人	28人	12人
電気電子工学科	80人	40人	32人	8人
情報システム工学科	60人	25人	23人	12人
化学システム工学科	60人	30人	18人	12人
機能材料工学科	50人	22人	22人	6人
土木開発工学科	80人	32人	36人	12人
合 計	410人	189人	159人	62人

注1 後期日程の募集人員には、各学科とも帰国子女特別選抜の募集人員若干人を含む。

2 推薦入学の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集する。

III 一般選抜

前期日程

1 出願資格 略

2 志望学科 略

3 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験、出身学校長から提出された調査書及び健康診断の結果を総合して行う。

(1) 大学入試センター試験の配点

区 分	教科及び配点			配点合計
	数 学	理 科	外国語	
大学入試センター試験	400点	200点	200点	800点
計	400点	200点	200点	800点

(2) 大学入試センター試験の受験を要する

教科・科目

数 学(数Ⅰ・数Ⅱ)と(数Ⅲ・数Ⅳ、工から1科目)の計2科目

理 科(物ⅠA、物ⅠBから1科目)と(化ⅠA、化ⅠBから1科目)の計2科目

外国語(英、独、仏、中、韓から1科目)

○数学(工)及び理科(物ⅠA、化ⅠA)については、受験できる者が限定されている。

(3) 健康診断 略

4 願書受付期間

平成14年1月28日(月)から
平成14年2月6日(水)まで

5 健康診断の期日(該当者のみ)

平成14年2月26日(火)

6 合格者の発表

平成14年3月6日(水)

7 入学手続期間

合格発表の日から
平成14年3月15日(金)まで

8 追加合格通知期間

平成14年3月28日(木)から
平成14年3月31日(日)まで

9 身体に障害を有する入学志願者の相談について 略

後期日程

- 1 出願資格 略
- 2 志望学科 略
- 3 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験、
本学が行う個別学力検査、出身学校長から
提出された調査書及び健康診断の結果を総
合して行う。

(1) 大学入試センター試験及び個別学力検査
の配点

区 分	教科及び配点				配点合計
	国語	数学	理科	外国語	
大学入試センター試験	200点	200点	100点	300点	800点
個別学力検査	-	300点	200点	-	500点
計	200点	500点	300点	300点	1300点

(2) 大学入試センター試験の受験を要する教
科・科目及び個別学力検査教科・科目

ア 大学入試センター試験教科・科目

国 語（国Ⅰ、国Ⅰ・国Ⅱから1科目）
数 学（数Ⅰ・数A）と（数Ⅱ・数B、
工、簿、情報から1科目）の計
2科目

理 科（総理、物ⅠA、物ⅠB、化Ⅰ
A、化ⅠBから1科目）

外国語（英、独、仏、中、韓から1科目）

○数学（工、簿、情報）及び理科（総理、
物ⅠA、化ⅠA）については、受験
できる者が限定されている。

○理科において、複数の科目を受験して
いる者については、高得点の科目の
成績を用いる。

イ 個別学力検査教科・科目

数 学（数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C）

○数Aは（数と式、数列）、数Bは（ベ
クトル、複素数と複素数平面）数Cは
（行列と線形計算、いろいろな曲線）
を出題範囲とし、選択問題を出题する。

理 科

○機械システム工学科

電気電子工学科

情報システム工学科

（物ⅠB・物Ⅱ）

○化学システム工学科

機能材料工学科

土木開発工学科

（物ⅠB・物Ⅱ、化ⅠB・化Ⅱか
ら1科目）

(3) 健康診断 略

4 願書受付期間

前期日程と同じ

5 試験期日及び試験場

期 日：平成14年3月12日（火）

試験場：北見工業大学

* 志願者が多数の場合、学外試
験場（北見市内）も使用する。

6 健康診断の期日（該当者のみ）

平成14年3月12日（火）

7 合格者の発表

平成14年3月20日（水）

8 入学手続期間

合格者発表の日から

平成14年3月27日（木）まで

9 追加合格通知期間

前期日程と同じ

10 身体に障害を有する入学志願者の相談に
ついて 略

IV 特別選抜（推薦入学）

1 募集人員

学 科	募集人員
機械システム工学科	12人
電気電子工学科	8人
情報システム工学科	12人
化学システム工学科	12人
機能材料工学科	6人
土木開発工学科	12人
合 計	62人

2 選抜期日

平成13年12月7日(金)(志願者が多数の場合、8日(土)におよぶ場合もある。)

3 選抜方法

学校長より推薦された者について、調査書、推薦書、小論文、面接及び健康診断の結果を総合して行う。(面接の際、特に自己アピールできる資料があれば、持参すること。)

個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する。

なお、事前の書類選抜は行わないことを原則とするが、志願者が多数におよび日程上困難な場合は、事前に書類選抜を行うことがある。

4 出願期間

平成13年11月1日(木)から
平成13年11月8日(木)まで

5 出願要件

(1) 全国の国公立高等学校若しくは中等教育学校を平成14年3月卒業見込みの者で、高等学校若しくは中等教育学校における学習成績・人物が優れ、健康状態が良好で、かつ、学校長が責任をもって推薦できる者

(2) 高等学校若しくは中等教育学校の調査書の国語、数学、理科、外国語の4教科の評定平均値が3.5以上の者

(3) 高等学校若しくは中等教育学校において、次の科目を履修した者

国語(国語Ⅰ)

数学(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B)

理科(物理ⅠB、化学ⅠB)

外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の内1科目以上)

ただし、工業に関する学科、理数科及びこれらに準ずる学科については、上記国語及び外国語のほか次の科目を履修した者

① 工業に関する学科

工業数理

数 学(数学Ⅰ、数学Ⅱ)

理 科 総合理科、物理(ⅠA、ⅠB)、化学(ⅠA、ⅠB)の3区分から2区分にわたり2科目

② 理数科

理数数学Ⅰ、理数数学Ⅱ、理数物理及び理数化学

③ ①及び②に準ずる学科については、その都度出願資格の事前審査を行う

6 合格発表日

平成13年12月12日(水)

V 特別選抜(帰国子女)

1 募集人員

各学科若干人

2 選抜期日

平成13年12月7日(金)

3 選抜方法

個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、成績証明書等の成績、小論文、面接及び健康診断の結果を総合して行う。

4 出願期間

平成13年11月1日(木)から
平成13年11月8日(木)まで

5 出願要件

日本国籍を有し、保護者とともに海外に在住し外国の学校教育を受け、かつ、次のいずれかに該当する者

(1) 外国において、学校教育における12年の課程(日本における通常の課程による期間を含む。)を平成12年4月1日から平成14年3月31日までに修了した者及び修了見込みの者。ただし、外国において最終の学年を含めて2年以上継続して在学した者

注 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設に在籍した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとはみなさな

い。

- (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を平成12年又は平成13年に授与された者で、平成14年3月31日までに18歳以上となる者
 - (3) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成12年又は平成13年に取得した者で、平成14年3月31日までに18歳以上となる者
 - (4) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成12年又は平成13年に取得した者で、平成14年3月31日までに18歳以上となる者
- 6 合格発表日
平成13年12月12日（水）

3月までに授与される見込みの者

- (3) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
 - (4) 平成14年3月までに大学における在学期間が3年以上となる者又は外国において学校教育における15年の課程を修了する者で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと、本学大学院において認められた者
 - (5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達したものと
 - (6) その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 注) 出願資格(4)により願い出る者の募集は、平成13年12月上旬に改めて行う。

- 3 願書受付期間
平成13年7月5日（木）から
平成13年7月12日（木）まで〔午後5時必着〕

- 4 出願手続 略

- 5 選抜方法
入学者の選抜は、学力検査、面接、成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。
なお、本学を平成14年3月卒業見込の者は、本学での学業成績を審査し、学力検査を免除することがある。
- (1) 学力検査・面接期日
第1日 平成13年8月20日（月）
第2日 平成13年8月21日（火）

平成14年度大学院工学研究科 博士前期課程学生募集要項

1 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
機械システム工学専攻	16人
電気電子工学専攻	16人
情報システム工学専攻	16人
化学システム工学専攻	14人
機能材料工学専攻	10人
土木開発工学専攻	20人
合計	92人

2 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成14年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者及び平成14年

(2) 学力検査科目及び日時

科目 専攻名	日時		8月20日(月)		8月21日(火)
	10:00-12:00		13:00~17:00		10:00~
	外国語科目	専門科目			面接
	必須科目	選択科目			
機械システム工学専攻	英語		材料力学、機械力学、熱力学、流体工学、機械製作学、制御工学 (6科目のうち3科目選択)		個人 面接
電気電子工学専攻	英語	電気磁気学 電気回路	制御工学、高電圧工学、電子回路、送配電工学、電気機器学、半導体工学、伝送工学、電子計算機 (8科目のうち1科目選択)		
情報システム工学専攻	英語 *注①	情報基礎 *注②	工業数学、線形代数、微分積分、知識工学、人口知識基礎論、情報符号理論、制御工学、デジタル画像処理、C/C++プログラミング*注③ (7科目のうち1科目選択)		
化学システム工学専攻	英語		物理化学、有機化学、化学工学、無機化学、分析化学 (5科目のうち3科目選択)		
機能材料工学専攻	英語		有機・高分子化学、無機材料化学、材料物理化学、材料分析化学、電子材料物性、金属材料物性、複合材料物性 (7科目のうち2科目選択)		
土木開発工学専攻	英語		構造力学、水理学、土質工学、応用物理学 (4科目のうち2科目選択) 橋梁工学、コンクリート工学、上下水道工学、港湾工学、河川工学、掘削工学、土地質学、雪氷学、交通工学 (9科目のうち1科目選択) (合計3科目選択)		

- * 全専攻とも筆記用具のほか、定規及びコンパスを持参してください。
- * 全専攻とも電卓の使用を認めるので持参してください。
- * 情報システム工学専攻の受験者は、
注① 英和辞典、和英辞典各一冊持込むことができます。
注② 出題の範囲は、離散数学、コンピュータアーキテクチャ、データ構造とアルゴリズムの内容を含みます。
注③ CまたはC++どちらか一方の言語で解答してください。継承は除きます。

(3) 健康診断 略

6 合格発表

平成13年9月5日(水)午後5時予定

7 入学時に要する経費

入学料 282,000円
授業料(前期分) 248,400円
【年額 496,800円】

平成14年度大学院工学研究科博士前期課程
社会人特別選抜学生募集要項

1 特別選抜の趣旨

科学技術の急速な進展と社会情勢の変化に伴い、社会のリフレッシュ教育に対する需要が、近年、急速な高まりを見せている。このような要請に対応するため、企業・官公庁、研究機関、教育機関等において活躍中の社会人を、在職のまま受け入れ、高度な学識の修得と研究・開発能力の向上を図ることを目的として、本研究科に受け入れの道を開いている。選考にあたっては、実務経験に基づく専門知識や技術等を重視し、一般の選抜方法とは異なる特別選抜を実施する。

2 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	各専攻とも 若干人

3 出願資格

入学時において現に勤務している企業等で2年以上の技術関係業務の経験を有する者で、入学後も引き続きその身分を有し、所属長の推薦を受けられる者で次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号参照)
- (5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達したもの
- (6) その他本学大学院において、大学を卒業

- した者と同等以上の学力があると認めた者
- 4 願書受付期間
平成13年7月5日(木)から
平成13年7月12日(木)まで〔午後5時必着〕
- 5 出願手続 略
- 6 選抜方法
入学者の選抜は、個人面接、成績証明書、志望調書、研究計画書、職務経歴書及び健康診断の結果を総合して行う。
(1) 個人面接
平成13年8月21日(火)午前10時から
(2) 健康診断 略
- 7 合格発表
平成13年9月5日(水)午後5時予定
- 8 入学時に要する経費
入学金 282,000円
授業料(前期分) 248,400円
【年額 496,800円】
- 9 入学後の取扱い
原則として、一般の学生の例による。
ただし、入学後の企業等における身分(現職・休職等)については、当該企業等の定めるところによる。

- 2 出願資格
日本の大学において教育を受ける目的をもって入国した外国人で、次のいずれかに該当する者
(1) 大学を卒業した者及び平成14年3月までに卒業見込みの者
(2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成14年3月までに修了見込みの者
(3) その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- 3 願書受付期間
平成13年7月5日(木)から
平成13年7月12日(木)まで〔午後5時必着〕
- 4 出願手続 略
- 5 選抜方法
入学者の選抜は、学力検査、面接、成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。
なお、国費外国人留学生は、日本国(文部科学省)へ申請時に提出した書類を審査し、学力検査及び面接を免除する。
(1) 学力検査・面接期日
第1日 平成13年8月20日(月)
第2日 平成13年8月21日(火)

平成14年度大学院工学研究科博士前期課程
外国人留学生特別選抜募集要項

1 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	各専攻とも 若干人

(2) 学力検査科目及び日時

科目 専攻名	日時		面接
	8月20日(月)		
	10:00-12:00	13:00-17:00	
	外国語科目	専門科目	
		必須科目	選択科目
機械システム工学専攻	英語		材料力学、機械力学、熱力学、流体工学、機械製作学、制御工学(6科目のうち2科目選択)
電気電子工学専攻	英語	電気磁気学 電気回路	制御工学、高電圧工学、電子回路、送配電工学、電気機器学、半導体工学、伝送工学、電子計算機(8科目のうち1科目選択)
情報システム工学専攻	英語		離散数学、コンピュータアーキテクチャ、データ構造とアルゴリズム(3科目のうち1科目選択) 工業数学(線形代数、微分)、知識工学、人口知能基礎論、情報符号理論、制御工学、デジタル画像処理、C/C++プログラミング*(7科目のうち1科目選択) (合計2科目選択)
化学システム工学専攻	英語		物理化学、有機化学、化学工学、無機化学、分析化学(5科目のうち2科目選択)
機能材料工学専攻	英語		有機・高分子化学、無機材料化学、材料物理化学、材料分析化学、電子材料物性、金属材料物性、複合材料物性(7科目のうち1科目選択)
土木開発工学専攻	英語		構造力学、水理学、土質工学、応用物理学(4科目のうち2科目選択) 橋梁工学、コンクリート工学、上下水道工学、港湾工学、河川工学、掘削工学、土地質学、雪氷学、交通工学(9科目のうち1科目選択) (合計3科目選択)

注① 筆記用具のほか、定規及びコンパスを持参してください。
 ② 電卓の使用を認めるので持参してください。
 ③ 情報システム工学専攻の*印の科目を選択する受験者は、CまたはC++どちらか一方の言語で解答してください。継承は除きます。

(3) 健康診断 略

6 合格発表

平成13年9月5日(水)午後5時予定

7 入学時に要する経費

入学料 282,000円

授業料(前期分) 248,400円

【年額 496,800円】

国費外国人留学生は、入学料、授業料とも不要。

平成14年度大学院工学研究科
 博士後期課程学生募集要項
 社会人特別選抜・外国人留学生募集要項

1 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
システム工学専攻	7人
物質工学専攻	5人
計	12人

2 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成14年3月までに修士の学位に相当する学位を授与される見込の者
- (3) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号参照)
- (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で24歳に達したもの
- (5) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

注) 出願資格(3)及び(4)により出願する者は、出願資格の事前審査を行う

3 願書受付期間

平成13年7月5日(木)から

平成13年7月12日(木)まで〔午後5時必着〕

4 出願手続 略

5 選抜方法

入学者の選抜は、面接(口述試験)、修士論文(又はそれに代わる論文等)についての審査、出身大学・大学院の成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。

なお、国費外国人留学生は、日本国(文部

科学省)へ申請時に提出した書類を審査し、面接を免除する。

- (1) 面接期日
平成13年8月22日(水)午前10時から
- (2) 健康診断 略

6 合格発表

平成13年9月5日(水)午後5時予定

7 入学時に要する経費

入学料 282,000円

授業料(前期分) 248,400円

【年額 496,800円】

国費外国人留学生は、入学料、授業料とも不要。

＝会議＝

平成13年度北海道地区国立大学長会議

(総務課)

本会議は、平成13年6月8日(金)、道内7国立大学長が出席し、本学が当番校となって開催された。

協議事項の第1は「国立大学の独立行政法人化について」であり、文部科学省では国立大学の独立行政法人化に関する調査検討会議で対応し、国立大学協会では設置形態検討特別委員会で検討している内容を踏まえて、各大学の取り組み状況と今後の対応について意見交換がなされた。

協議事項の第2は「大学評価について」であり、現在、大学評価については各大学が自主的に行う自己点検・評価、外部評価、学生による授業評価などいろいろの大学評価があるが、今後は大学評価・学位授与機構による評価のほか、工学部系についてはJABEEによる評価・認定制度がある。

これらの大学評価に対する各大学の取り組み状況と今後の対応について意見交換がなされた。



＝研究助成＝

平成13年度文部科学省在外研究員決定

(総務課)

○長期(甲種)

所 属	職 名	氏 名	派遣先国	期 間	研 究 課 題
電気電子工学科	助教授	植田 孝夫	アメリカ	13.9.1～ 14.6.30	エージェントモデルを用いたシステム制御に関する研究

○長期(甲種)若手教官

所 属	職 名	氏 名	派遣先国	期 間	研 究 課 題
機能材料工学科	助 手	川村みどり	ドイツ	13.11.6～ 14.11.1	STMを用いたSi/Geヘテロエピタキシーにおける応力の影響の検討

平成13年度国際研究集会派遣研究員(第Ⅱ期)決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	会 議 名	開 催 地	開催期間
土木開発工学科	助教授	亀田 貴雄	氷コアと気候に関する国際シンポジウム	カゲルルスク (デンマーク)	13.8.19～ 13.8.23
土木開発工学科	助教授	山下 聡	第15回国際地盤工学会議	イスタンブール (トルコ)	13.8.27～ 13.8.31
電気電子工学科	教 授	田村 淳二	米国電気電子学会ポルト電力技術国際会議2001	ポ ル ト (ポルトガル)	13.9.10～ 13.9.13

平成13年度(財)日本科学協会笹川科学研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
情報システム工学科	助教授	吉田 秀樹	新型マン・マシンインターフェイス装置の開発研究 促進をめざした携帯型誘発脳波直流成分計測システムに関する研究	千円 400

新エネルギー・産業技術総合開発機構
平成13年度産業技術研究事業費助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
電気電子工学科	助教授	武山 眞弓	ULSIにおける置換型複合窒化合金バリヤを用いた 一体型極微細 Cu 配線に関する研究	千円 9,150

平成13年度(財)北海道河川防災研究センター研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
土木開発工学科	教 授	内島 邦秀	緩和曲線を挿入した河道湾曲部の流れと河床形状に関する研究	千円 1,200
土木開発工学科	助教授	早川 博	水理・水文モデルの比較・評価に関する研究	1,200

平成13年度(財)実吉奨学会研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
情報システム工学科	教務職員	曾根 宏靖	光ファイバーの非線形効果によるスーパーコンティニウムパルスに関する研究	千円 1,000

平成13年度栗林育英学術財団研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機械システム工学科	助教授	山田 貴延	北網圏地域におけるマイクロガスタービン・コージェネシステムの性能評価	千円 200
電気電子工学科	講 師	川村 武	構造的不確かさのある線形系の擬似剰余列を用いた安定性解析	200

平成13年度民間等との共同研究の受入状況

(総務課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにゴミ質調査、作業環境調査	北 見 市
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	木酢液中の有害物質除去に関する研究	佐藤林業(株)
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	バイオガス回収システムの研究	(株)栗本鐵工所
機械システム工学科	助教授	三木 康臣	ソーラービニールハウスによる野菜・花卉類の通年栽培技術に関する研究	(株)O M 研究所
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	オオギ中の老化予防活性成分に関する研究	(財)北海道科学技術総合振興センター
情報システム工学科	講 師	後藤文太郎	Java の技術動向に関する調査	北 見 市
土木開発工学科	助教授	桜井 宏	コンクリート構造物の耐久性評価のための化学分析方法の研究	(株)アグネ技術センター

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	北見市やすらぎ苑ダイオキシン類測定分析研究	北 見 市
留学生教育相談室	講 師	菅野 亨	高付加価値化を目的とした天然ゼイライト 鉱物複合材料の開発	(株)共成レンテム
化学システム工学科	助教授	山田 哲夫	カラマツ活性炭の連続生産に関する研究	訓子府石灰工業(株)
機械システム工学科	教 授	佐々木正史	融雪機能を有する太陽光/熱ハイブリット パネルの性能向上	積水化学工業(株)

平成13年度累計 44件

平成13年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	「貴金属触媒の基礎的研究」に 対する研究助成	田中貴金属工業(株)	500,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	「学術研究」に対する研究助成	森永乳業(株) 装置開発研究所	300,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	「雷に関する工学研究」に 対する研究助成	北海道電力(株) 総合研究所	1,000,000
情報システム工学科	助教授	吉田 秀樹	「工学研究」に対する研究助成	吉 田 秀 樹	400,000
化学システム工学科	助教授	堀内 淳一	「工学研究」に対する研究助成	雪印乳業(株) 札幌研究所	1,000,000
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	「工学研究」に対する研究助成	(株)カイゲン	700,000
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	「工学研究」に対する研究助成	共成製薬(株)	700,000
地域共同研究センター	教 授	斎藤 俊彦	「工学研究」に対する研究助成	三菱重工業(株) 横浜製作所	500,000
土木開発工学科	教 授	森 訓保	「工学研究」に対する研究助成	(有)アミューズ	100,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「工学研究」に対する研究助成	(有)アミューズ	100,000
土木開発工学科	助教授	後藤 隆司	「工学研究」に対する研究助成	(有)アミューズ	100,000
未利用エネルギー研究センター	教 授	庄子 仁	「工学研究」に対する研究助成	(株)豊水設計	100,000
土木開発工学科	助教授	山下 聡	「工学研究」に対する研究助成	(株)豊水設計	100,000
土木開発工学科	教 授	高橋 修平	「寒冷地工学研究」に対する研 究助成	陸別町しばれ 技術開発研究所	500,000
土木開発工学科	助教授	山下 聡	「火山灰土の圧密排水条件にお けるセン断特性に関する基礎的 研究」に対する研究助成	(株)中神土木 設計事務所	150,000
機能材料工学科	教 授	佐々木克孝	「工学研究」に対する研究助成	佐々木克孝	300,000
機械システム工学科	教 授	田牧 純一	「接触放電ドレッシングに関す る研究」に対する研究助成	(株)ニートレックス	200,000

所 属	職名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「橋梁メンテナンスの研究」に対する研究助成	(株)日本製鋼所 室蘭研究所	1,000,000 ^円
機械システム工学科	教 授	羽二生博之	「流体工学に基づいた高性能芝刈り集塵機の研究開発」に対する研究助成	(株)植松電機	500,000
情報システム工学科	教 授	藤原 祥隆	「自己適応型知識ベース設計法に関する研究」に対する研究助成	藤原 祥 隆	300,000

平成13年度累計 9件

=人事=

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
13.7.1	助手 (情報システム工学科)	角 田 貢	講師(東京工業大学大学院総合理工学研究科)に昇任させる

海 外 渡 航

○外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡航目的及び渡航先国	期 間
共通講座	教 授	照 井 日出喜	ベルリン・フンボルト大学にてフランクフルト学派の批判理論に関する研究打合せ及び文献資料収集 (ドイツ)	13.4.5 ~13.5.10
機械システム工学科	教 授	大 橋 鉄 也	MRS(アメリカ材料科学会)2001年春季会合出席及び講演(アメリカ)	13.4.15 ~13.4.21
機能材料工学科	教 授	青 木 清	第3回材料の水素処理国際会議にて招待講演 (ウクライナ)	13.5.12 ~13.5.19
電気電子工学科	教 授	菅 原 宣 義	Forth International Symposium on Cable Dynamics に出席 ケベック大学にて研究設備見学及び研究打合せ (カナダ)	13.5.26 ~13.6.5
機械システム工学科	教 授	二 俣 正 美	電磁波シールド・撥水・抗菌機能を有する材料開発に関する現状調査及び研究打合せ (中国)	13.5.27 ~13.6.3

所 属	職 名	氏 名	渡航目的及び渡航先国	期 間
機能材料工学科	助 手	張 強	電磁波シールド・撥水・抗菌機能を有する材料開発に関する現状調査及び研究打合せ (中国)	13.5.27 ～13.6.12
機能材料工学科	教 授	高 橋 信 夫	2001年日本留学フェア出席 (アメリカ)	13.5.27 ～13.6.1
機械システム工学科	助 教 授	鈴 木 総 一 郎	2001年日本留学フェア出席 (アメリカ)	13.5.27 ～13.6.1
	学 長	厚 谷 郁 夫	哈爾濱工程大学、武漢科技大学及び東北林業大学との研究交流活性化に関する打合せ (中国)	13.5.27 ～13.6.3
	事務局長	大 内 剛	哈爾濱工程大学、武漢科技大学及び東北林業大学との研究交流活性化に関する打合せ (中国)	13.5.27 ～13.6.3
土木開発工学科	教 授	鮎 田 耕 一	コンクリートの耐久性に関する研究打合せ (中国)	13.5.27 ～13.6.3
化学システム工学科	教 授	小 林 正 義	膜工学国際会議出席 (スペイン) パリ大学にて研究打合せ (フランス)	13.5.28 ～13.6.8
土木開発工学科	教 授	高 橋 修 平	南極科学国際委員会ワーキンググループにて研究発表及び研究打合せ (アメリカ)	13.6.9 ～13.6.17
未利用エネルギー研究センター	教 授	庄 子 仁	環北極雪氷掘削コアによる比較環境変動研究 (デンマーク)	13.6.10 ～13.7.20
電気電子工学科	教 授	田 村 淳 二	電気機械及びドライブ装置に関する国際会議2001年大会参加及び論文発表 (アメリカ)	13.6.16 ～13.6.20
土木開発工学科	教 授	佐 藤 幸 雄	第11回 ISOPEL (国際海洋極地学会) 出席 (ノルウェー)	13.6.16 ～13.6.25
機械システム工学科	教 授	田 牧 純 一	型・モールドの設計・製作に関する第2回国際会議・展示会にて研究報告及び研究打合せ (トルコ)	13.6.20 ～13.6.27
土木開発工学科	助 教 授	亀 田 貴 雄	掘削を主体とする氷河調査 (ロシア)	13.6.24 ～13.7.23
土木開発工学科	教 授	鮎 田 耕 一	国際交流及び留学について打合せ (シンガポール) 2001年日本留学フェア出席 (マレーシア)	13.6.27 ～13.7.2
教 務 課	課 長	細 川 勉	国際交流及び留学について打合せ (シンガポール) 2001年日本留学フェア出席 (マレーシア)	13.6.27 ～13.7.2
電気電子工学科	教 授	田 村 淳 二	IASTED 国際会議2001年大会参加、論文発表及び電力関係最新技術の調査 (ギリシャ)	13.6.30 ～13.7.8

○海外研修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
情報システム工学科	教 授	鈴 木 正 清	国際会議 ICASSP2001にて発表及び 研究討論、資料収集 (アメリカ)	13.5.7 ~13.5.12
土木開発工学科	教 授	榎 本 浩 之	国際雪氷学会シンポジウムにて発 表 (アメリカ)	13.6.2 ~13.6.10

= 受賞 =

多田旭男教授 日本無機リン化学会学術賞を受賞

(化学システム工学科)

多田旭男教授は、北海道大学工学部助手時代以来、一貫して続けてきた「無機リン化合物の表面性質と機能性材料への応用」に関する研究成果が日本無機リン化学会で高く評価され、学術賞を授与されました。本賞は、無機リン化合物に関する学術研究に顕著な貢献をした会員に授与される同学会最高の賞です。授賞式は、平成13年度日本無機リン化学会（平成13年6月23日、東京医科歯科大学）で行われました。

同教授は、無機リン化合物が触媒だけでなく、吸着材料、湿度センサー材料などにも広く使え

ることを明らかにしました。近年は、無機リン化合物とは一見、無関係と思える研究、例えば電磁波吸収体、コンポスト、排ガス浄化、化学センサー、酸化物超電導体などの研究も積極的に手がけていますが、これらは、研究成果の樹形図の幹を形成する「無機リン化合物の表面性質と機能性材料への応用」から派生したもの(枝葉)と位置づけられます。

受賞の対象となった研究の内容は、北見新聞（平成13年7月2日）にもわかりやすく紹介されていますので併せてご覧下さい。



＝諸報＝

総合研究実験棟（機器分析センター）竣工及び
地域共同研究センター増築記念式典等の開催

（総務課）

去る5月24日、総合研究実験棟（機器分析センター）竣工及び地域共同研究センター増築の記念式典及び祝賀会が挙行されました。

記念式典では、厚谷学長の式辞、札幌工事事務所所長（増川所長補佐代読）の祝辞の後、青木機器分析センター長から同センターの概要説明があり、引き続きテープカットが行われました。

続いて、機器分析センター、地域共同研究センターの見学を行い、出席者は大型教育研究機器を前にして、本学関係者の説明に熱心に耳を傾けていました。

引き続き、記念祝賀会が本学会議室で挙行され、佐々木帯広畜産大学長、嶋影室蘭工業大学機器分析センター長、神田北見市長から祝辞が寄せられた後、センター竣工等を盛大に祝いました。

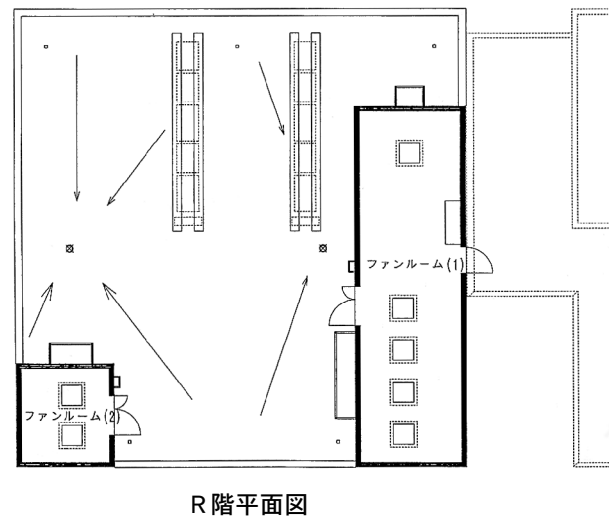
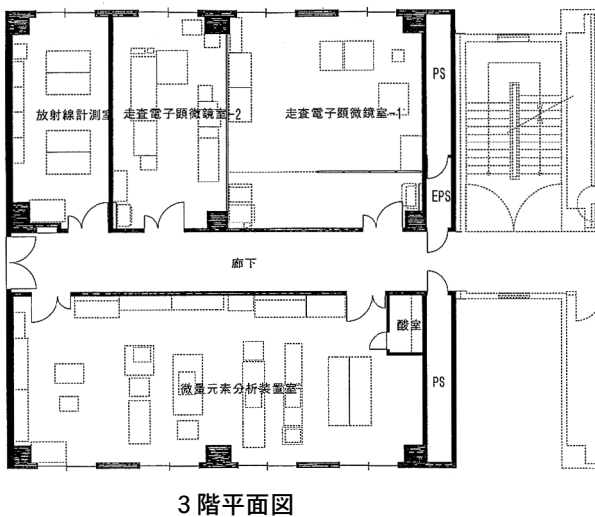
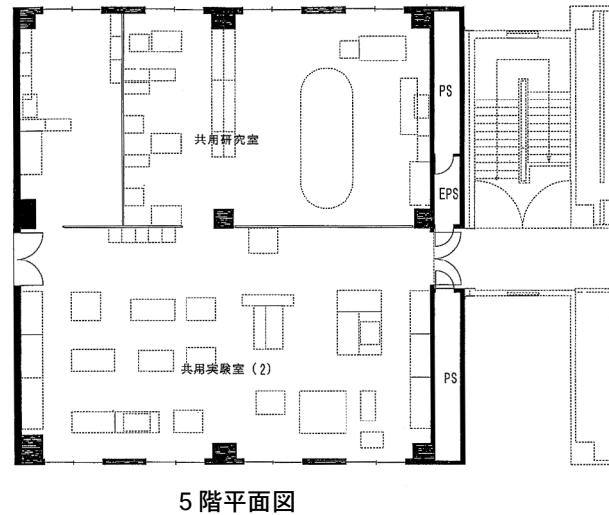
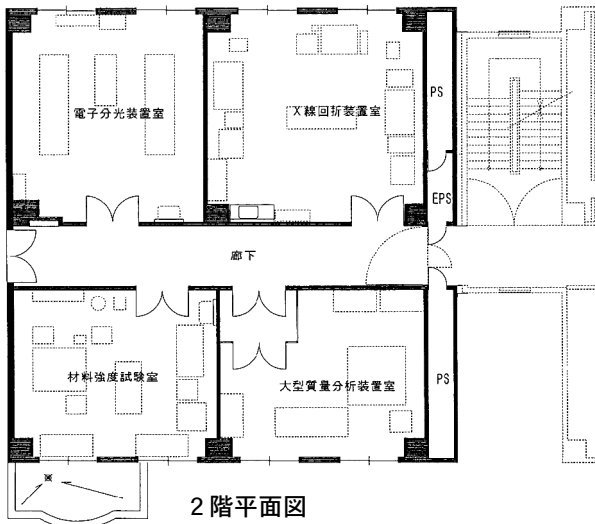
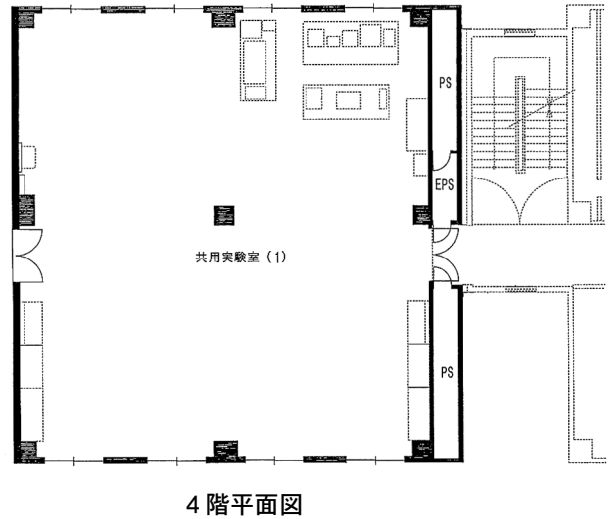
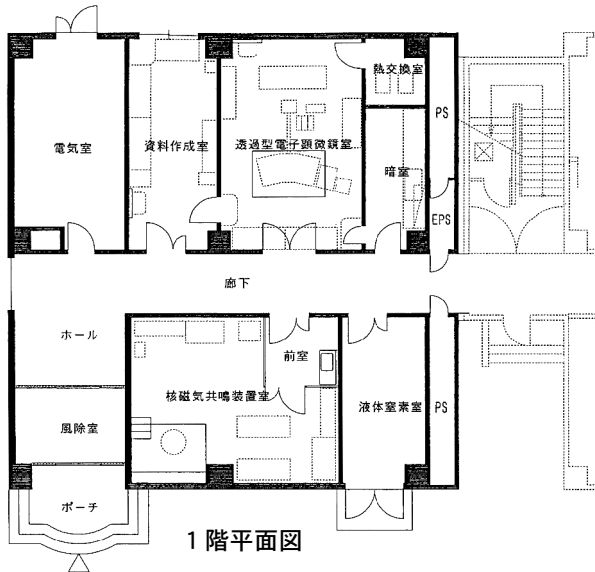
総合研究実験棟は、機器分析センターが平成11年4月に設置された後、学内に分散されている大型教育研究機器を一元的に管理し、より合理的・効率的な機器の活用を図ることを目的に、平成13年3月、5階建、延べ1,200m²の建物が竣工しました。

また、平成4年に設置された地域共同研究センターは、共同研究数の急速な増加に伴い、研究スペースが狭隘化したため、平成12年10月に約870m²の増築工事が完成し、総面積が約2,003m²となりました。



施設見学風景

総合研究実験棟(機器分析センター)見取図



未利用エネルギー研究センターの表札上掲

(総務課)

4月1日付けで学内共同教育研究施設として設置された未利用エネルギー研究センターで、このほど厚谷学長、鮎田副学長、庄子センター長、大内事務局長ら関係者が出席して、表札の上掲式が行われました。

同センターは、非在来型のエネルギー源として有力視されているメタンハイドレートを研究対象の主軸として、未利用エネルギー研究分野の開拓・推進を目的として設置されたものです。

オホーツク海には、今世界的に注目されているメタンハイドレート鉱床が存在し、これをフィールド拠点とすることができる同センターは、その地理的便宜性を最大限活用し、基礎研究と

実用化研究を両輪とする新しいエネルギー技術の国際的な総合開発拠点となるべく発展が期待されています。



父母との懇談会（春季）開催

(教務課)

父母との懇談会（春季）を、5月19日（土）本学を会場として、学部学生2～4年次及び博士前期課程2年次の学生（札幌地区を除く）を対象として実施しました。

当日は、九州、沖縄等からの参加者も含め、112組153人の父母が参加し、鮎田副学長の全体説明に続いて、各学科、専攻に分かれて個別面談が行われました。

個別面談では、修学状況、就職問題等について質問が出され、熱心なやりとりが交わされました。

なお、秋季に予定している懇談会（会場：北海道大学学術交流会館）には、春季に案内され

なかった札幌地区の父母、学部1年次及び博士前期課程1年次の父母を対象に実施する予定です。



参加者に全体説明をする鮎田副学長

平成13年度第1回公開講座

(教務課)

本年度の第1回公開講座「クオーリアの詩 - 心が生まれる意味論 - 」が5月10日(木)～6月12日(火)までの間、下記日程によりSCS教室において実施されました。

写真家の水越 武氏をはじめ、学内外から多彩な顔ぶれで実施され、講座も充実した内容で、

受講者にも大変好評を博しました。

また、8月6日(月)～7日(火)には、高校生(一般市民を含む)を対象とした第2回公開講座「君は知ってる? - 世界と競う北見工業大学の研究最前線 - 」が開催され、今年度は計4回の公開講座の開催が予定されています。

日 程	講 師		講 義 題 目
	職 名	氏 名	
5月10日(木)	北見工業大学教授	小林 正義	クオーリアの風景
5月15日(火)	北見循環器クリニック院長	今野 敦	心が生まれる - 脳と心臓の不思議な関係 -
5月17日(木)	写真家	水越 武	森の時間
5月22日(火)	北見工業大学助教授	堀内 淳一	微生物に心はあるか?
5月24日(木)	東京農業大学助教授	鈴木 敦志	クリオネにクオーリアを見出すとき
5月29日(火)	油絵画家	金井 恵子	生命(こころ)の自由を求めて
5月31日(木)	北見農業試験場	柳沢 朗	クオーリアのある小麦新品種の開発
6月5日(火)	北見工業大学助教授	田村 卓哉	知覚の不思議 - 対象・光・目・脳 -
6月7日(木)	道都大学教授	小川昭一郎	徒然草のクオーリア
6月12日(火)	北海学園北見大学教授	菊地 均	まちづくりのクオーリア

平成12年度奨学・奨励金授賞式

(学 生 課)

学部学生の学習奨励を目的に設けられた、本学奨学基金による表彰式が6月21日C122講義室で関係教職員・一般学生等約150名の出席の下に実施されました。基金の表彰規定の一部が昨年度末に一部改正があり全学科の各年次の成績等優秀者1名を表彰することになりました関係上、当時の4年次学生は既に表彰を受けていますので、今回は、昨年度の1年次から3年次の成績優秀者18名が表彰を受けました。

授賞式では、厚谷学長は受賞者一人一人に賞状と副賞を渡し、祝辞を述べました。最後に受賞者を代表して細谷学君(機械4年次)からお

礼の言葉がありました。

その後、受賞学生(6名:現4年次)と鮎田副学長との座談会が約40分行われました。座談会は自己紹介から始まり、副学長からの質問に対して、効果的な勉強の進め方、サークル活動の楽しさ、卒業後の将来計画等について全員から率直な発言がありました。副学長の質問に関連して、フロアー席の学長から貴重な提言があったり、受賞学生の指導教官等から辛口の忌憚ない指摘もあり、出席していた多数の学生は、今後の学生生活の貴重なヒントを得るなど成功裏に終了しました。

(受賞学生の紹介 年次は昨年度のものによる)

学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次
機械システム工学科	山本 恵輔	安倍 忍	細谷 学
電気電子工学科	高橋 伸一	桃井 寛美	川田 正弘
情報システム工学科	太田 圭亮	中神 文男	菊池 清寿
化学システム工学科	山階 維騎	佐藤 政徳	井上 富男
機能材料工学科	鯉江 之典	小野塚具丈	久保田周平
土木開発工学科	千原 充	恒岡 匡	北国谷友史成



第39回大学祭

テーマ「one」－みんなの心をひとつに－

(学 生 課)

今年の大学祭は、6月23日(土)・24日(日)の両日とも気温が30度を超える猛暑もなんのその、青春の熱気で振り払い大成功裏のうちに終了しました。

恒例の模擬店、サークル発表、コンサート、展示物及び体育大会並びに大学祭実行委員会のステージイベントとして「女装コンテスト」、「早食いダービー」等子供から大人まで楽しむ

る多彩な催し物があり、絶好の祭り日和の中数多くの北見市民との交流が積極的に行われ楽しい風景がみられました。

特に、「国際交流お茶会」は一般市民の協力を得て、女子留学生は和服姿に着替えて「野点」に参加する等日本独特の文化に直接触れる貴重な(日本の学生も同じ)な体験をしました。



「女装コンテスト」(司会者以外は全員○です)



のだて
「野点」

第32回「北苑祭」実施

(学 生 課)

今年で32回を迎えた北苑祭(寮祭)が6月14日から16日まで実施されました。寮生は、テーマ『祭野人(みんなでオラに元気をわけてくれ)』のもと、3日間にわたり講演会、オリエンテーリング、白ふん行列、餅つき大会、早朝卓球大会に参加し無事終了しました。特に、恒例の「白ふん行列」は、6月15日午後3時に学寮玄関を責任者(機能材料2年前田和也君)の号令で出発し、目的地の市役所横の中央公園まで3kmの道のりを2時間かけて練り歩きました。行列は1年生を中心とした白ふん姿の30名が神輿に太鼓を叩く4年生を乗せ、市民から声援を受けながら元気に市内商店街を練り歩き本学寮生の心意気を多いに示し中央公園に無事到着し

ました。ここでは、餅つき大会グループが白ふん行列の到着に合わせて懸命に準備を行い、待機していた市民ともども餅を食べながら日頃の交流を深めた一日でした。



地域共同研究センター主催行事報告

(地域共同研究センター)

平成13年5月17日(木)13時から17時まで、ホテルベルクラシック北見において公開セミナー「ハイタッチフロントへ向けて - JAVA による挑戦」を開催しました。JAVAはサン・マイクロシステムズ社が開発したプログラム言語であり、OSに左右されない作業環境を提供すること、携帯電話への組み込みが容易になったこ



フォーラム「ハイタッチフロントに向けて - JAVA による挑戦」会場風景

となどから、最近急速に普及してきているものです。本年度から北見工業大学情報システム工学科では正規の講義科目として取り入れ、サン・マイクロシステムズ社の教育認証機関として動き始めました。オホーツク地域にベンチャー産業を振興する手段として、JAVAセンターを核とする産業群創成を目指し、産業クラスター創成、地域の産業群に根ざした将来の産業創成、及び地域経済界の連携支援をいただくために、本フォーラムでは各界からJAVAの可能性、有効性を講演していただきました。北見工大学長、北見市長の挨拶に続いて、「Javaで広がる世界 - 偏在するJava環境 - 」鈴木章氏(サン・マイクロシステムズ(株))、「情報教育におけるJavaのになう役割と期待される効果」後藤文太郎氏(北見工業大学情報システム工学科)、「移动通信体(モバイル)の将来像 - JAVAを中心として」斉藤利治氏(株)KDDIテクノロ

ジー)、「建設 CALS / EC」矢武篤明氏(北海道リコー(株))、「地域戦略としての JAVA」安部彰人氏(有)アベニュー)に講演していただきました。講演後、大島センター長をコーディネーターにパネルディスカッションを行い、150名を越える会場の参加者からも熱心なご質問をいただきました。



フォーラム「ハイタッチフロントに向けて
—JAVA による挑戦」パネルディス
カッション風景

客員教授による特別講演会が3回開催されました。6月8日(金)午後1時から午後2時までSCS教室において「ダイオキシンとは何か - 抑制技術の研究 - 」と題して客員教授・笹本博彦氏(愛知製鋼(株)リサイクル本部長)、6月11日(月)午前10時半から12時までE233教室において「金属系超伝導体と酸化物系超伝導体について - 物性、製造技術、応用から見た相違点 - 」及び7月4日(水)午前8時50分から10時20分までE232教室において「超伝導は如何に発展してきたか」と題して客員教授・前田弘氏(元北見工業大学教授)にご講演いただきました。

6月13日午後3時から4時半まで、本学情報システム工学科卒業生でベンチャー企業を立ち上げられた実吉智裕氏に学生向け講演をしていただきました。実吉氏は、一昨年(株)アットマークテクノというIT関連企業を立ち上げた若干27歳。実吉氏を含む開発担当4人すべてが北見工大卒という本学にとっては何とも頼もしい方々です。

センターでは、本年度もパネル展による産学官交流会を計画しております。活動助成の申請を行っていた全国中小企業団体中央会より採択通知が6月29日付でありました。日程その他詳細については、後日連絡させていただきますが、多くの先生方のご協力を賜りたく、お願い申し上げます。



セクシュアル・ハラスメント相談員

(総務課)

北見工業大学には、セクシュアル・ハラスメントに関する相談に対応するため、相談窓口として複数の相談員を置いています。

本年7月1日以降の相談員は、下記のとおり変更になりましたのでお知らせします。

どのような相談でも一人で悩まず、安心して相談して下さい。相談の際には、所属にかかわらず相談員を自由に選択できますし、また相談者のプライバシーは守られ、相談することが不利益になることは決してありません。

〔相談員〕

氏名	所属・職名	教官室等	電話番号
た まき じゅん いち 田 牧 純 一	機械システム工学科 教授	機械システム工学科2号棟 4階 田牧教官室	26-9222
ほそ や よし お 細 矢 良 雄	電気電子工学科 教授	電気電子工学科2号棟 3階 細矢教官室	26-9281
い とう ち え こ 伊 藤 知 恵 子	電気電子工学科 助手	1号館 1階 電子工学第一実験室	26-9290
かみ や ゆう じ 神 谷 祐 二	情報システム工学科 教授	情報システム工学科1号棟 4階 神谷教官室	26-9323
た だ あ き お 多 田 旭 男	化学システム工学科 教授	化学システム工学科2号棟 3階 多田教官室	26-9386
かわ むら みどり 川 村 み どり	機能材料工学科 助手	機能材料工学科棟 2階 電子材料研究室	26-9451
うち じま くに ひで 内 島 邦 秀	土木開発工学科 教授	土木開発工学科棟 3階 内島教官室	26-9498
かね くら ただ ゆき 金 倉 忠 之	共 通 講 座 教授	1号館 2階 金倉教官室	26-9545
い とう よし と 伊 藤 宜 人	保健管理センター 所 長 (官職指定)	保健管理センター 所長室	26-9170
み かみ やす こ 三 上 雍 子	保健管理センター 看護婦	保健管理センター	26-9171
た なか まさ よし 田 中 正 喜	総務課長 (官職指定)	総務課長室	26-9103
やま ざき あき お 山 崎 昭 男	学生課長 (官職指定)	学生課事務室	26-9156
いし たに よう こ 石 谷 洋 子	会計課管財係長	会計課事務室	26-9126
かん ばら ひろ こ 神 原 弘 子	附属図書館整理係長	附属図書館事務室	26-9178
ふじ た み よ こ 藤 田 美 代 子	教務課教務係主任	教務課事務室	26-9152

＝ 規 程 ＝

北見工業大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程

平成13年 6 月 4 日

北工大達第29号

北見工業大学受託研究取扱規程（昭和45年10月21日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第3項中「地方公共団体」の次に「又は独立行政法人」を加える。

第3条第1項中に次のなお書きを加える。

なお、当該間接経費は、競争的資金による研究費においては直接経費の30%に相当する額とするが、委託者側の事情により30%に相当する額と異なる額とする場合には委託者と学長が合意した額とする。

また、競争的資金以外の研究費においては、学長が定める額とする。

第3条第2項中、第2号の次に次の1号を加える。

三 競争的資金による研究費のうち、委託者の財政事情で間接経費がない場合で学長がやむをえないと認める場合。

第3条第3項中「第1項の規程により受託者の負担する額を算定する場合」を「第1項の規定により競争的資金以外の研究費について委託者の負担する額を算定する場合は、」に改める。

附 則

この規程は、平成13年 6 月 4 日から施行し、平成13年 4 月 1 日から適用する。

制 定 理 由

平成13年 3 月30日付け12文科振第292号文部科学省研究振興局長及び大臣官房会計課長通知「受託研究の取扱いについて」に基づく所要の改正

北見工業大学受託研究員取扱規程の一部を改正する規程

平成13年6月4日
北工大達第30号

北見工業大学受託研究員取扱規程（昭和60年北工大達第2号）の一部を次のように改正する。

別表を次のように改める。

別表（第6条、第7条関係）

区 分		研究期間	研究料
一般の受託研究員	長期	6か月を超えて 1年以内	516,000円
	短期	6か月以内	258,000円
農林水産省農林水産技術会議事務局 所管の独立行政法人（注参照）が 定める「国内留学制度」による受託研 究員	長期	6か月を超えて 1年以内	516,000円
	短期	6か月以内	258,000円
農林水産省農林水産技術会議事務局所管の独立行政 法人が定める「流動研究員制度」による受託研 究員		3か月以内	129,000円
農林水産省「農業改良普及推進 事業実施要領（普及職員等資質 向上緊急対策事業）」による受 託研究員	改良普及員	6か月以内	258,000円
	専門技術員及び 農業者研修教育 施設等指導職員	3か月以内	129,000円
文部科学省「国立試験研究機関等 に従事する研究職員のための国内留学 制度」による受託研究員	長期	6か月を超えて 1年以内	430,000円
	短期	6か月以内	215,000円

（注）農林水産省農林水産技術会議事務局所管の独立行政法人

農業技術研究機構、農業生物資源研究所、農業環境技術研究所、農業工学研究所、食品総合
研究所、国際農林水産業研究センター、森林総合研究所、水産総合研究センター

附 則

この規程は、平成13年6月4日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

制定理由

平成13年3月30日付け12文科振第296号文部科学省研究振興局長通知「受託研究員の受入れ等について」及び平成13年3月30日付け12文科振第294号文部科学省研究振興局長通知「受託研究員、私学研修員、専修学校研修員、公立高等専門学校研修員、公立大学研修員及び教員研修センター研修員の研究料について」に基づく所要の改正

北見工業大学外国人受託研修員取扱規程

平成13年6月20日
北工大達第31号

(趣旨)

第1条 この規程は、外国人受託研修員制度実施要項(昭和49年3月18日文部大臣裁定。以下「実施要項」という。)に基づき、北見工業大学(以下「本学」という。)における外国人受託研修員(以下「受託研修員」という。)の取扱いについて、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において受託研修員とは、国際協力事業団(以下「事業団」という。)が開発途上国から招致する研修員で本学において研修を受ける者をいう。

(資格)

第3条 受託研修員となることができる者は、学校教育法(昭和22年法律第26号)第52条に規定する大学を卒業した者又は学長がこれに準ずる学力があると認めた者とする。

(受入手続及び許可)

第4条 受託研修員の受入れは、事業団総裁からの申請に基づき、本学の教育及び研究に支障がない場合に限り、学長が許可するものとする。

(受入報告)

第5条 学長は、受託研修員の受入れを許可したときは、速やかに文部科学省大臣官房長に報告するものとする。

(変更報告)

第6条 学長は、前条の報告の内容に変更を生じた場合は、速やかに文部科学省大臣官房長に報告するものとする。

(研修期間)

第7条 受託研修員の研修期間は、1年以内とし、受入れを許可する日の属する会計年度を超えることができない。ただし、学長が特別の理由があると認めた場合は、この限りでない。

(研修期間区分)

第8条 受託研修員の研修期間区分は、会計年度における研修する期間の日数により、1か月を単位として区分する。

(研修方法)

第9条 学長は、受託研修員の研修目的及び研修内容を考慮して指導教官を定め、指導を行わせるものとする。

2 前項の目的を達成するため必要と認める場合は、第7条に規定する研修期間中に学外における研修を行わせることができる。

(研修料及び徴収方法)

第10条 受託研修員に係る研修料は、研修期間分に応じ、実施要項第9項の規定に基づき、文部科学大臣が別に定める額とする。

2 受入れを許可したときは、当該会計年度に属する研修料を事業団から直ちに徴収するものとする。

3 当該会計年度内における研修期間の延長により研修期間区分に変更が生じた場合には、延長する研修期間を加算し、第8条に規定する研修期間区分により、直ちに研修料の差額を追徴するも

のとする。

4 当該会計年度を超えて研修することを許可している場合の翌年度の研修料は、第8条に規定する研修期間区分により、翌年度当初に徴収するものとする。

5 既納の研修料は、原則として還付しない。

(研修証明書)

第11条 研修期間を修了した受託研修員には、本人の希望により研修証明書を交付することができる。

(準用)

第12条 受託研修員については、本学の諸規程を準用する。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、受託研修員の取扱いに関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成13年6月20日から施行する。

制定理由

外国人受託研修員制度実施要項(昭和49年3月18日文部大臣裁定)に基づき、本学における外国人受託研修員の受入れに係る取扱いについて必要な事項を定めるための制定

北見工業大学外国人研究者受入規程の一部を改正する規程

平成13年 6 月20日

北工大達第32号

北見工業大学外国人研究者受入規程（昭和61年北工大達第16号）の一部を次のように改正する。

第11条中第3号を削り、第4号を第3号とする。

附 則

この規程は、平成13年 6 月20日から施行する。

制定理由

北見工業大学外国人受託研修員取扱規程（平成13年北工大達第31号）制定に伴う所要の改正

北見工業大学地域共同研究センター産学官連携推進員受入規程

平成13年7月18日
北工大達第33号

(目的)

第1条 この規程は、北見工業大学地域共同研究センター（以下「センター」という。）において産学官連携に関する業務に従事させようとする地方公共団体等（以下「団体等」という。）の職員を産学官連携推進員（以下「推進員」という。）として受入れるために必要な事項を定めるものとする。

(資格)

第2条 推進員は、センターにおいて産学官の連携・協力及び共同研究等の推進を図るための業務を遂行する上で、必要な知識と経験を有する者とする。

(受入方法)

第3条 推進員として派遣を希望する団体等の長は、所定の派遣申込書を学長に提出するものとする。

2 学長は、前項の申込みがあったときは総務委員会の議を経て、受入れの可否を決定するものとする。

3 学長は、前項の受入れを決定したときは速やかに所定の受入決定通知書を当該団体等の長に通知するものとする。

(受入期間)

第4条 推進員の受入期間は、1年間とする。ただし、必要があるときは受入期間の延長又は短縮をすることができるものとする。

2 前条の規定は、受入期間の延長又は短縮の場合に準用する。

(業務内容)

第5条 推進員は、センターにおいて次の業務に従事するものとする。

- 一 民間機関等との共同研究等の企画及び推進に関すること。
- 二 民間機関等との情報交換及び連絡調整に関すること。
- 三 産学官連携を推進するための業務に関すること。

(施設等の利用)

第6条 推進員は、センターの施設・設備を利用することができるものとする。

(費用の負担)

第7条 推進員の給与及び手当並びに赴任及び帰任に伴う費用は、当該団体等の負担とする。ただし、センターの業務に伴う必要な経費はセンターが負担する。

(服務等)

第8条 推進員の勤務時間及び服務等については、原則として当該団体等の関係規則等に定めるところによる。

(補償)

第9条 推進員の業務中の災害補償については、当該団体等の関係規則等を適用するものとし、北見工業大学はその責を負わないものとする。

(覚書の締結)

第10条 学長は推進員の受入れを決定したときは、当該団体等の長と覚書を締結するものとする。

(事務)

第11条 推進員の受入れに関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、推進員の受入れに関し必要な事項は、センター長が定めるものとする。

附 則

この規程は、平成13年7月18日から施行する。

制定理由

本学地域共同研究センターに地方公共団体等の職員を受入れ、産学官の連携・協力をより円滑に推進するための制定。

= 日誌 =

(総 務 課)

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|---|
| 5月10日 | 第1回公開講座(～6月12日) | 6月6日 | 総務委員会 |
| 5月17日 | フォーラム「ハイタッチフロントへ
向けて - JAVA による挑戦」 | 6月7日 | 大学院専攻主任会議
未利用エネルギー研究センター表札
上掲式 |
| 5月18日 | 附属図書館委員会 | 6月8日 | 平成13年度北海道地区国立大学長会
議
第1回地域共同研究センター特別講
演会 |
| 5月19日 | 春季父母との懇談会 | | 北海道 TLO 特許アドバイザー個別
相談会 |
| 5月22日 | 入学者選抜委員会 | 6月11日 | 第2回地域共同研究センター特別講
演会 |
| 5月23日 | 第635回教授会
第113回研究科委員会 | 6月13日 | 開学記念日
編入学試験(推薦による選抜)
ベンチャー起業家講演会 |
| 5月24日 | 機器分析センター竣工及び地域共同
研究センター増築記念式典 | 6月14日 | 第32回北苑祭(～16日) |
| 5月27日 | 工業英語能力検定試験実施 | 6月15日 | 教務委員会 |
| | | 6月19日 | 入学者選抜委員会 |
| | | 6月20日 | 第636回教授会
第114回研究科委員会
編入学試験(推進による選抜)合格
発表 |
| | | 6月21日 | 平成12年度奨学・奨励金授賞式 |
| | | 6月23日 | 第39回大学祭(～24日) |

目 次

2 ~ 3	会 議 報 告	全国国立大学工学系学長懇談会、第51回国立大学工学部長会議、平成13年度北海道地区国立大学長会議、第108回国立大学協会総会、国立大学長会議
4 ~ 9	国 際 交 流	バージニア州立工科大学工学部との学術交流協定締結、2001年NAFSA年次総会における日本留学フェア(大学間交流促進プログラム)への参加報告、2001年日本留学フェア(マレーシア)に参加して
10 ~ 12	寄 稿	エコアイランド八丈島
13 ~ 20	入 試 関 係	平成14年度入学者選抜要項、平成14年度大学院工学研究科博士前期課程学生募集要項、平成14年度大学院工学研究科博士前期課程社会人特別選抜学生募集要項、平成14年度大学院工学研究科博士前期課程外国人留学生特別選抜募集要項、平成14年度大学院工学研究科博士後期課程学生募集要項社会人特別選抜・外国人留学生募集要項
20	会 議	平成13年度北海道地区国立大学長会議
21 ~ 24	研 究 助 成	平成13年度文部科学省在外研究員決定、平成13年度国際研究集会派遣研究員(第Ⅱ期)決定、平成13年度(財)日本科学協会笹川科学研究助成金交付決定、新エネルギー・産業技術総合開発機構平成13年度産業技術研究事業費助成金交付決定、平成13年度(財)北海道河川防災研究センター研究助成金交付決定、平成13年度(財)実吉奨学会研究助成金交付決定、平成13年度栗林育英学術財団研究助成金交付決定、平成13年度民間等との共同研究の受入状況、平成13年度奨学寄附金の受入状況
24 ~ 26	人 事	人事異動、海外渡航
26	受 賞	多田旭男教授日本無機リン化学会学術賞を受賞
27 ~ 34	諸 報	総合研究実験棟(機器分析センター)竣工及び地域共同研究センター増築記念式典等の開催、未利用エネルギー研究センターの表札上掲、父母との懇談会(春季)開催、平成13年度第1回公開講座、平成12年度奨学・奨励金授賞式、第39回大学祭、第32回「北苑祭」実施、地域共同研究センター主催行事報告、セクシュアル・ハラスメント相談員
35 ~ 41	規 程	北見工業大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程(北工大達第29号)、北見工業大学受託研究員取扱規程の一部を改正する規程(北工大達第30号)、北見工業大学外国人受託研修員取扱規程(北工大達第31号)、北見工業大学外国人研究者受入規程の一部を改正する規程(北工大達第32号)、北見工業大学地域共同研究センター産学官連携推進員受入規程(北工大達第33号)
42	日 誌	5月・6月

H13. 7 発行

規程については、13.7.18まで掲載しました。

潜む危険に注意力・危険回避にチーム力

平成13年度国家公務員安全週間（平成13年7月1日～7月7日）